



No.149

# 中部 教区通信

編集 日本基督教団中部教区  
教区通信編集委員会  
発行人 加藤 幹夫  
発行所 〒461-0009  
名古屋市東区久屋町8の6  
日本基督教団中部教区事務所  
電話 (052) 971-8497  
E-mail ckyo@quartz.ocn.ne.jp  
振替口座 00830-7-52037  
Homepage <http://uccj-chubu.com>



## 主を愛すること

マルコによる福音書 8章31～33節

かとう みきお  
中部教区総会議長 加藤 幹夫

教会の交わりの中で「主の御心に従えず、神を愛せず、隣人を愛せない」という言葉を聴く時があります。教会は「主の御心」と「愛」を大切にしていますが、それに応えられず、他人から責められ、力を失って、何もできない自分を責め自己嫌悪に陥ってしまうことがあるのです。

主の御心に従って、神を愛するとは何でしょうか？

ともすれば、自分の思いを「主の御心だ」と決めつけて、教会の交わりを壊してしまう場合があります。また、自分の行いと「神を愛し、隣人を愛する」ことを結びつけ、自分を正当化し、他人を裁く場合もあります。ですから、聖書の御言葉を聴く時は、まず、自分の思いを捨てて主の言葉、主がわたしたちを愛しておられる恵みを受けとめなければなりません。

主イエスは、ガリラヤ伝道を終了して、エルサレムへの道を歩み始められる時、弟子たちに十字架と復活の予告をされました。ペトロは、その予告を聞いて驚き、主を脇にお連れして、いさみ始めました。ペトロは「自分は主を愛している」と思っていたのです。彼は、主と共に神の国を完成させるために歩んできました。「わたしは主のためなら死んでもいい。たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしはつまずきません」とも言っています。だから、主が、「わたしは十字架に架けられて死ぬ」と言われた時、「そんなことがあってはならない」と思ったのです。主と共に神の国の実現に向かって歩もうとしている時、主が死んでしまったらすべてが終わりになってしまうからです。そのペトロに対して主は、「サタン、引き下がれ、あなたは神のことを思わず、人間のことを思っている」と激しく怒られました。これはとても強烈な戒めです。ペトロを「サタン」と呼びつけたのです。ペトロにとっては、ショックな言葉であったと思います。「こんなにわたしは主のことを愛しているのに！」と思ったことでしょうか。しかし、ペトロは、主を真実には愛していなかったのです。ペトロの思いと主の思いは、まるっきり違っていたのです。

他者を愛するためには、まず、他者の思いをしっかりと受けとめなくてはなりません。主は、父なる神の御心を受けとめ、それに従おうとされています。神の御心は、神御自身が示してくださらなければわからないのです。聖書は、「神の御心は十字架と復活によって明らかにされた」と語ります。神の御心とは、独り子を十字架に架け、人の罪を赦し、復活によって永遠の命を与えることにありました。その御心を受け、主は十字架に向かわれるのです。そこから真実の愛が始まるのです。真実の愛は、人からではなく神から出るからです。ペトロは、その主の思いがわかりません。ただ人間的な愛を持って主を愛しているつもりになっているのです。主の御心を受けとめなければ、主を愛することにはなりません。自分にとって必要だから愛するものではありません。その人のためになると思っただけの愛を献げることでもありません。「あなたのために」はあなたのためにならないのです。「あなたのために」と思っていることが、かえってあなたを苦しめる場合も多いのです。主を愛するためには、まず、主の御心を受けとめ、神の御心を受けとめなくてはなりません。そうしないと、神を愛するのではなく、自己満足の愛になってしまいます。

ペトロが、主の御心、神の真実の愛を知ったのは、復活の主と出会い、福音に立ち、復活を証言した時です。主がペトロに「サタン！」と呼びつけた理由がここにあります。ペトロは、主が与えようとした福音を壊そうとしたのです。十字架による罪の赦しと復活による永遠の命、その神の愛を正しく受けとめていなかったのです。言葉を言い換えれば、ペトロは自分の十字架を背負っていなかったのです。十字架とは罪の象徴です。その罪を背負って十字架の重さを知らなければ、主の十字架の恵みもわからないでしょう。十字架を背負うとは苦勞を背負うことではなく、神の御心を見失う自分の罪と向き合うことです。そして、主に従いつつ、十字架を仰ぐ時、すべての罪を背負って下さった主の姿があります。そこに主の愛が溢れ出ているのです。

真実の愛は、主の十字架と復活の恵みに溢れ出ています。その福音に生かされる時、愛することのできない自分であったとしても、主の愛に答えて生きてゆきたいと思うのです。教会の業のすべては、この主の愛から始まるのです。

# 第73回中部教区総会を終えて

中部教区総会議長 加藤幹夫

第73回中部教区総会が5月23・24日（火・水）、名古屋中央教会で開催されました。コロナの心配も残る中、名古屋中央教会のご厚意も有り、4年ぶりに2日間の開催ができたこと、共に礼拝をささげ、祈り、賛美し、御言葉を味わう時が与えられたことを感謝します。

今回もコロナ感染対策も考慮し、予備投票なしの常置委員選挙とし、全体の時間を短縮し、一日目の議事を夕食前で終了しました。今後も、信徒議員の高齢化や体力的な面を考えますと、一日目夕食後に議事を行うことには無理が生じるのではと思います。

教団問安使として黒田若雄教団書記、教団出版局から吉岡光人理事長、在日大韓基督教会から李珍容中部地方会副会長、教区内関係学校の代表者から、それぞれ、挨拶をいただきました。

二日目の朝、中部教区を最終任地として、10年以上働かれてきた逝去教師を覚え、記念追悼礼拝をささげました。その後、准允式（日下部蒔恵教師）を執行しました。以下、主な決議事項をお知らせします。

## 1. 三役常置委員を選出

\*議長：加藤幹夫 副議長：小林光  
書記：尹成奎

## \*教職常置委員

横山良樹 田口博之 木下喜也 勇文人  
佐藤誠司 地多政枝

## \*信徒常置委員

朝倉秀之 辻康 山本松子 衛藤慧志  
村瀬明子

## 2. 各部・常設委員を選出

## 3. 前総会期と同じ特設委員会継続を可決

## 4. 宣教実施目標、新年度予算、秋季按手礼執行を可決

## 5. 教区規則変更に関する件を可決

現行の教区規則では教会記録審査は「教区総会に報告しなければならない」となっていました。コロナにより集まっての教区総会が開催できない時、緊急措置として各地区で行い、まとめたものを常置委員会で報告しました。原則として記録審査は教区総会での報告ですが、議事録等の持ち運びの困難さ、審査委員の負担を考えると、今後も各地区での審査の時が必要と考え、「ただし、教区総会で報告できない場合は常置委員会に報告する」の追加をしました。その時の状況を踏まえつつ、教区総会で行うか地区で行うかを選択してゆ

ければと考えております。

今回の総会は、コロナ以前の総会時より比較的短い時間で終えることができましたが、財政や互助をはじめ、さまざまな課題について話し合い、いろいろな意見をかわす時も与えられました。また、それらの課題を吟味しつつ、今後、常置委員会においても話し合っ

て行きたいと思っております。今後、教団、教区、各教会・伝道所の大きな課題として、教勢低下、高齢化、財政低下による教会の体力低下があります。教団はこの打開策として機構改定を考えてきましたが、暗礁に乗り上げた状況になっています。教区は、財政のスリム化を考えてゆかなければなりません。代務や兼牧が増加しています。また、教会・伝道所の廃止が増加している教区もあります。これからの教団、教区、各教会・伝道所も、この現実を深く受けとめつつ、さまざまな判断が必要となってくる時代に入ってきています。

中部教区は、宣教実施目標に掲げているように、「福音伝道を使命とし、全体による助け合いと研修によって主にある一致と交わりを求めてゆきたい」と願っています。特に助合伝道は、日本基督教団信仰告白と教憲・教規を守り、主にある信頼関係のもと、福音を宣べ伝える教師を支え、また、支え合うことによって共に主の恵みをほめたたえるものです。今後、各教会・伝道所の助合伝道献金が低下してゆく中で、信徒1人、1人による自主献金が大切な収入源となってきます。皆さまのご理解とご協力をお願いします。

各教会・伝道所の働きが主の恵みによって支えられますようにお祈りいたします。



日下部蒔恵教師准允式

## 2023～2024年度中部教区三役・常置委員選挙結果 及び各部各委員会委員詮衡結果

### 〈三役〉

総会議長 加藤幹夫（阿漕）

総会副議長 小林光（熱田）

総会書記 尹成奎（中川ぶどうの木）

### 〈常置委員〉

横山良樹（半田）、田口博之（名古屋）、木下喜也（金城）、  
勇文人（富山二番町）、佐藤誠司（福井神明）、地多政枝  
（松阪）、朝倉秀之（金沢）、辻康（四日市）、山本松子  
（紀伊長島）、衛藤慧志（尾張一宮）、村瀬明子（半田）

### 〈各部〉

#### 伝道部

[長] 大住共平（知立）、川上野ゆり（蘇原）、濱田真喜  
人（久居新生）、前田真孝（出町）、石井和典（白銀）、  
山本博之（如鷲）、岩淵正樹（高蔵寺ニュータウン）

#### 教育部

[長] 有岡史季（敦賀）、矢部節（尾張一宮）、丸田久子  
（幸町）、渡部信子（富山新庄）、大澤正芳（金沢元町）、  
白田宣弘（世真留）、川上侑（各務原）、小堀富士美（富  
山鹿島町）

#### 社会部

[長] 勇文人（富山二番町）、栗原武士（刈谷）、草地大  
作（名古屋中央）、釜土達雄（七尾）、佐藤徹（丸岡）、  
清水与志雄（田瀬）、辻秀治（桑名）

#### 教師部

[長] 八束清（御器所）、吉川進（大台めぐみ）、阿部啓  
（豊橋中部）、渡部和使（富山新庄）、新藤豪（輪島）、  
後藤真英（武生）、大塚信明（飛騨高山）

#### 財務部

[長] 野村敏彦（名古屋桜山）、生木恵一（各務原）、大  
友信一（安城）、田口博之（名古屋）、三野慶仁（四日市）、  
加藤順子（名古屋中央）

#### 宣教研究部

[長] 吉澤永（愛知）、小田部正一（シルバーホームまき  
ば）、尹成奎（中川ぶどうの木）、上竹裕子（上野）

#### 人事部

[長] 加藤幹夫（阿漕）、小林光（熱田）、尹成奎（中川  
ぶどうの木）

### 〈常設委員会〉

#### 互助委員会

[長] 佐藤誠司（福井神明）、小堀康彦（富山鹿島町）、  
松島保真（小松）、江連実（豊田）、草地大作（名古屋中  
央）、西川幸作（中濃）、蜂屋博寿（津）、野村敏彦（名  
古屋桜山）

#### 「障がい者と教会」委員会

[長] 柳本秀良（城之橋）、和田芳子（東海）、田中郷史

（小牧）、前田和之（豊橋）、田中文宏（名古屋桜山）、  
水谷恵子（飛騨高山）、本弘禮子（津）

#### 部落差別問題委員会

[長] 安達正樹（名古屋新生）、松島保真（小松）、池田  
慎平（津示路）、吉川光太郎（福野）、江連実（豊田）、  
西川幸作（中濃）

#### 愛知老人コミュニティーセンター委員会

[長] 加藤幹夫（阿漕）、木下喜也（金城）、須田静代  
（名古屋中央）

### 〈特設委員会〉

#### 教区史資料蒐集委員会

[長] 尹成奎（中川ぶどうの木）、松島保真（小松）、落  
合建仁（金城学院）、榮巖（春日井）

#### 幼稚園問題委員会

[長] 小林光（熱田）、吉川光太郎（福野）、加藤孔二  
（金沢長町）、吉澤永（愛知）、児玉剛則（金城）、石原  
ゆかり（名古屋）

#### 教区通信編集委員会

[長] 石田聖実（鈴鹿）、小林光（熱田）、尹成奎（中川  
ぶどうの木）、田中郷史（小牧）、須田静代（名古屋中央）

#### 在日大韓基督教会との宣教協約推進共同委員会

[長] 加藤幹夫（阿漕）、尹成奎（中川ぶどうの木）、草  
地大作（名古屋中央）、加藤啓子（名古屋中村）

### 〈特別委員会〉

#### 「原理問題」対策委員会

[長] 片山博喜（枇杷島）、柳本伸良（華陽）、安達正樹  
（名古屋新生）、佐藤徹（丸岡）、杉本誠（西尾）、川上  
野ゆり（蘇原）

#### 役員研修会実行委員会

[長] 蜂屋博寿（津）、濱田真喜人（久居新生）、辻康  
（四日市）、加藤幹夫（阿漕）

#### 財政検討委員会

[長] 田口博之（名古屋）、尹成奎（中川ぶどうの木）、  
佐藤誠司（福井神明）、小林光（熱田）、加藤幹夫（阿漕）

#### バイブルキャンプ実行委員会

[長] 松島保真（小松）、吉川光太郎（福野）、森野真理  
（福野）、木下喜也（金城）、榮巖（春日井）、柳本伸良  
（華陽）、川上侑（各務原）

### 〈常任委員〉

#### 監査委員

[長] 村山盛芳（南山）、横山厚志（瀬戸永泉）、齋藤晃  
（鳴海）

※ [長] は委員長、――は信徒

## 活かされています 伝道活動援助費

### 福音落語のひとつとき 大台めぐみ教会

毎年クリスマスコンサートで、地域の方々に主の救いのメッセージを発信してきましたが、2020年からCOVID-19のパンデミックのため練習ができず、以後コンサートは見送りました。歌がだめなら落語は、と役員会で意見が出され、計画を開始。上方落語の大御所、露の五郎兵衛師匠の娘さんである露のききょう師匠に落語の会をお願いしたところ、双子の姉妹菅原早樹牧師の歌とコラボレーションすることで、快く引き受けて下さいました。

2021年～22年に計画した日程は、パンデミックの周期が短く、2度にわたり延期し、第8波の収まりを見越してようやく2023年3月19日に実施することができました。できるだけ多くの方々に、聴いていただけるよう、3密をいかに回避するかと腐心しました。会場の集会室いっばいに座席を設定し、春半ばながら窓をできるだけ開放して全体の通気を心がけました。

前夜に、師匠持参の見台、膝隠しをテーブルに載せて高座を設定し、当日は主日礼拝で共にみ言葉の恵みにあずかりました。午後3時からの本番は、先ず早樹牧師が、ご自分の作詞作曲の歌のほか、福音讃美歌2曲などを含めて、キリストの愛の深さ、豊かさを熱唱して下さいました。既に7枚のCDを出しておられる実力の歌声が心に迫りました。

第2部で露のききょう師匠が、古典落語にもある『宗論』<sup>しゅうろん</sup>を、親子が繰り広げる仏教VSキリスト教の宗教論争の噺から福音落語的にアレンジして、軽妙な笑いを通してキリストの福音の歓びを見事に語って下さいました。たくさんあるネタから、プロの落語家としての力強さに、普段教会には足を踏み入れない方々にも恵みに富むひとときでした。お二人の歌と噺には、



信仰の証しがいっぱい詰まっていた。

教区の援助によって、近隣の方々にキリストの愛の恵みを味わっていただけた、と感謝いたします。

牧師 吉川 進 <sup>きっかわ</sup>

### ハンドベルコンサート 名古屋東教会

昨年の12月11日に、名古屋東教会はハンドベルのクリスマスコンサートを行いました。

当教会は2020年に新会堂を建築いたしました。新型コロナウイルスに襲われ、新しい会堂を与えられた喜びと、それまで支えてくださった方々への感謝を共にすることができずにいました。思い返すと、とても苦しい日々でした。少しずつ社会が秩序を取り戻す中で、わたしたちもその歩みを共にするために何かできないかを考え、手始めにハンドベルのコンサートをする事としました。教会の関係者の方がリリオンベルズというハンドベルのグループの指導者で、教会の会堂で練習をしていたのです。

感染防止のため会堂に入れる人数を30人に決めましたが、たくさんの方をお招きしたい思いを封じ込めるのはとにかくつらかったです。リースなどクリスマスの装飾とポインセチアで飾られた会堂で、クランツのろうそくに3本火を灯した中で奏でられたクリスマス讃美歌は美しいものでした。その中で、少々季節外れではありますが、リリオンベルズの提案で映画『ひまわり』（ひまわりはウクライナの国花）のテーマ曲が演奏された時、いまでも戦闘が続いているウクライナの地に思いを共に馳せ、皆で平和を祈る時となりました。いただいた伝道活動援助費によって充実した時を持つことができましたこと、心から感謝です。

教会は、集まってこそいのちが与えられる場であることを再認識させられます。今年はもう少し工夫しながら、お招きする人数を増やしてコンサートを行うべく、今から計画中です。どうぞおぼえてお祈りください。

牧師 馬場詩織



岡崎教会 金元基

今年の4月より、岡崎教会に着任しました金元基です。日本語が上手だとよくお褒めいただくのですが、生まれも育ちも日本です。



わたしは、幼い頃から教会に通っていました。そこで耳にした様々なメッセージが、いつしか希望や励ましとなりました。また、心が辛いとき、失意の中にあるときなど、多くの場面で、わたしは教会に支えられてきました。ですので、今度はわたしが教会、ひいては岡崎教会を支えたいと願っています。

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛されました。これ以上の大きな愛はないでしょう。不正義、不誠実がまかり通る混沌としたこの世にあって、神を必要とする方お一人おひとりが、その愛を知り、希望や励ましを受け取ることが出来ますよう、神とみ言葉に信頼しつつ、主に喜ばれる教会形成を目指します。

城之橋教会 柳本秀良

18年間住み慣れた岡崎を離れ、2023年4月1日より、福井の城之橋教会に着任しました。年齢を考えると、おそらくは自分にとって最後の任地になるだろうと、神さまの導きを求めて祈り、示された教会です。福井は、今まで一度も暮らしたことがない土地です。特に北陸という冬雪の降る地域は初めてなので、少し不安もありますが、今までと同じように、住めば都となるだろうと、のんびり考えています。城之橋教会は現住陪餐会員数30名、礼拝出席は10名くらいの小さな教会ですが、今年で116年の歴史を持つ教会です。北陸という伝道の難しい土地で、どのように用いられるのか、つい気負ってしまいますが、あまり肩に力を入れずに励もうと思っています。教会は宣教の働きとして、認定こども園城之橋幼稚園を通し、幼児教育の業に取り組んでいます。保育の現場は18年ぶりですが、まずは副園長として励みたいと思います。



金沢南部教会 山田和人

言葉による意思疎通ができなくなった患者さんを訪問する際、相手の呼吸に自分の呼吸を合わせると、不思議と気持ちが落ち着いてくる。そっと身体に触れて、相手の息を意識すると、心の声が聞こえてくることもある。

「わたしは大丈夫ですから、姉たちのことをよろしくお願いします。」と、ベッドに横たわり、浅く息をするその人はわたしの呼びかけに答えてくれた。

牧師交代に伴う諸手続きや就任式などひと通りの通過儀礼が済んで、これからは教会に集う方々の息を意識する番だ。礼拝で、私たちは息を使って賛美する、祈りを捧げる、聖書を朗読する、メッセージを語る。

そこでお互いの息を意識することは、とても大切なことだと思う。相手の心の声に耳を傾けた時に聞こえてくる一人ひとりの思いを大切に、金沢南部教会らしい礼拝と相互の交流を築いていきたい。

名古屋学院大学 澤村雅史

中部教区の皆様、はじめまして。この春から名古屋学院大学スポーツ健康学部に参加しました澤村雅史と申します。ちなみにスポーツはぜんぜんダメです(笑)。

一般企業に7年勤務ののち、牧師を目指して関西学院大学神学部に進学し、初任地の春日東教会(九州教区・福岡地区)では主任担任教師として、教会の皆様や地区・教区の皆様のお支えのもと、8年間を過ごさせていただきました。前任校の広島女学院大学に移った当初は、恥ずかしながら広島原爆の日が何月何日かも知らない有様でしたが、学生たちと共に学ぶ14年の間で自然に核廃絶や(積極的)平和の実現に強い思いを持つようになりました。現在、名古屋学院大学では学生たちが祈りに応答して素直に唱えてくれる「アーメン!」の野太く大きな声に圧倒されながら、『敬神愛人』の実現に向けて日々あたふたしております。どうぞよろしく願いいたします。



中部学院大学 八木橋康広

前任地は岡山県高梁市の高梁教会(東中国教区)です。高梁市は中国山地の盆地にある小さな古い城下町ですが、教会は新島襄の伝道を機に141年前に設立されました。私は25年間を牧師として過ごしましたが、新島襄以来この地に強く根を張った教会と、それを支えていた信徒の方々からはたくさんの「霊の糧」を受けました。特に40歳くらい年長の方々から大きな感化を受けました。既に主だった方々は天国に見送らせて頂

きました。そして60歳を機に退職することになり、思いがけない導きがあり、当教区で教務教師として新たな人生を始めることになりました。前任地で受けたと信じる「霊の糧」を少しでも40歳ほど年少の学生さんに伝えることが出来るように励んで参りたいと存じます。



## 准允を受けて

### 名古屋中央教会 日下部蒔恵

はじめまして。この4月より名古屋中央教会の伝道師として着任致しました日下部蒔恵と申します。初任地のため期待と不安を胸に名古屋に参りましたが、多くの祈りによってお支え頂いています。

5月の教区総会では、加藤教区議長の司式のもと准允を授かりました。既に着任はしておりましたが、



教師としての第一歩がここから始まるのだと身の引き締まる思いでした。神さまがこの私を召してください、教会のこの地域での福音伝道の業を担わせてくださることへの感謝を忘れずに、誠実に神と人と教会に仕えていきたいです。私自身、自己アピール出来るほどの秀でた特技はありませんが、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」というみ言葉を大切にしつつ歩んで参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

## ふくみつ 福光教会

福光で伝道が始まってから、約100年が経とうとしています。カナダメソジストの宣教師が福光を訪れ、宣教を始めた。言葉で言うのは簡単ですが、実際には多くの苦難、命の危険さえあったことを多くの証言を通して知らされます。浄土真宗の教えや文化が深く根付く地域に異国の宣教師が訪れ、全く違う教えを語る。それがどれほど危険で、勇気のいることか。私などでは想像もつきません。しかし、それでも忍耐し、主の勝利を信じて粘り強く続けられた伝道の先に、今の福光教会があるのだと胸が熱くされます。



この地での伝道は宣教師によって建てられた幼稚園と共に行われてきました。イエス様の愛によって行われる保育は、次第に地域の方々から好意を寄せられるようになります。そしてその中で語られる御言葉が人々を新しくし、やがて教会としての歩みが整えられていきました。私はこの教会の歴史を見るときに、使徒言行録に記されている出来事が同じように起こっていることを思われます。今も規模は決して大きくありませんが、ここには主の期待があり、そして今では考えられないような豊かな実りが約束されているのです。

火曜日には、幼稚園の先生方向けにメッセージが語られ、また幼稚園の子どもたちの礼拝が教会の礼拝堂で行われます。木曜日には保護者向けの聖書の学びがあります。教会と幼稚園が共に行う伝道がより具体化しています。先日行われた子どもの教会夏期活動も、定員の30名をはるかに超える申し込みがありました。かつては忌み嫌われていた教会が地域に出ていき、地域に愛されるようになりました。今はまだ実りの予兆。豊かな実りの収穫の時をイエス様と共に忍耐強く待ちたいと願っております。 牧師(兼) 吉川光太郎

## ここでの宣教

## 愛北教会

愛知西地区の一番北に位置する愛北教会は1957年に、「ハリエタ・ジョンソン宣教師・協力伝道師須藤とき師によって、岩倉にて（名古屋）中央教会員伊藤正明氏の紹介により、六畳二間の借家で伝道が開始される。集会に集まる人は増加し、毎週三十余名を数えるようになる。」と、伝道開始40年記念誌に書かれています。



そして1979年に土地を購入し、1984年に会堂を建て、現在に至っています。

愛北教会は名鉄木津用水駅ようすいから240メートルという便利な場所にあります。また教会からたった50メートル離れた場所は犬山市になり、さらに木曾川を越えると岐阜県各務原市という大きな市にほど近い場所に教会があります。ですから一番近い教団の教会は愛知西

地区の小牧教会ではなく、岐阜地区の各務原教会なのです。

礼拝出席は平均7名程ですが、年に一人程度、外国人の新来会者が与えられ共に礼拝を守ることができ、私達はとても喜んでおりまた励まされています。私たちはもちろん、日本の小さな町で働く外国人の方々にとっても礼拝はとても大切なことであり、御言葉に支えられ力を与えられる場所なのだと思うと、この小さな礼拝の集まりが神さまによって用いられるよう強く祈り願っています。

愛北教会は今年創立66周年を迎えます。しかし主任担任教師を迎えることができず、代務教師の時がすでに3年になろうとしています。その間多くの先生方の御協力によって10時30分からの礼拝を守ることができています。しかし一日も早く主任担任教師が与えられますよう教会員一同祈っていますので、どうぞ愛北教会を覚えてお祈り下さいますようお願いいたします。

代務者 長田圭子



## 逝去教師を偲んで



菊地惟晃教師

菊地惟晃先生は、他教派の教職から日本基督教団（以下教団）に來られました。スウェーデンオレブロミッションのヘルゲ・ヤンソン宣教師より受洗（1952年）。澤村五郎牧師に学ぶべく関西聖書神学校へ。岡山聖約キリスト教会の牧師になりました。1971年に教団に移られ、西那須野、新井、桃山、四日市教会を牧しました。教団に來た理由は「障がいのある牧師に開かれていたから」との事でした。

先生には障がいがありましたが、伝道者仲間の一員として教団の教会に仕え、最前線で差別と戦う姿勢はとられませんでした。主は生まれつきの盲人に「神の業がこの人に現れるため」と仰いました（ヨハネ9章）。そのことが大事なら、現れる形は一つではないのかも知れません。羊のために命を捨てた大牧者に導かれ2007年に隠退。ご家族が手厚い看護をなさり6月6日に90歳で召されました。

尾陽教会 須藤茂明



原栄作教師

原栄作先生が天に召されたとの報をいただき、ご遺族の上に主の慰めを祈らせていただきますとともに、先生への感謝を述べさせていただきます。原先生は、1964年の9月1日に金城学院高等学校に赴任され、以来28年間、1993年3月31日まで宗教主事として聖書科で教鞭をとられました。ご退職後も、非常勤として高等学校だけでなく大学でも教えていただきました。わたしも先生にご指導いただいた生徒の一人です。先生の丁寧な語り口と優

しい笑顔は今でも忘れることができません。高校1年のクリスマスに洗礼を受けた時と2009年に金城学院大学に教員として戻って来た時はほんとうに喜んでくださいました。先生の応援に支えられながらここまで来ることができました。先生への感謝とともに、先生に出会わせてくださった神さまに感謝するばかりです。

金城学院 小室尚子



東岡山治教師

東岡山治先生は、2023年3月4日、3人の娘さんに囲まれ、92歳の生涯を終えました。

東岡先生は、広島県、滋賀県で牧者として宣教され、教団における部落解放の働きを先駆的に担われました。東岡山治先生は自らの体験から、福音を宣べ伝える教会の差別意識を感じておられ、だからこそ、自分がこの世に生まれてきたのだと語られていました。東岡先生は、祈りと愛を持って差別せず、差

別を見抜く人を育てる為に生涯を捧げ、全国の教会で部落解放の働きに取り組む道を開かれました。東岡先生は「キリスト教には…復活の希望があるのです。…人間に光あれ。人間に熱あれ。」と語られました。主の「光」と「熱」に満たされ、後に続いて歩めますように。

刈谷教会 栗原武士

一八七三年にキリシタン禁制の高札撤去の太政官布告が出され、キリスト教信仰の禁止が解かれて今年で一五〇年を迎えました。ただ、それは主として外圧に伴う黙認といったものでありました。その後、一八八九年に発布された大本国憲法の第二八条に信教の自由が定められました。それが条件付きのものでありました。まことの意味での信教の自由は、一九四六年に公布された日本国憲法の第二〇条において保障されたと言えましょう。つまり、日本においてキリスト教が黙認されてから一五〇年、条件無しで認められてからはまだ七十七年しか経っていないとも言えましょう。この自由というもののが当たり前のものではなく、そしてこれからも理解を深め大切にしていくことができるよう、今改めて思い起こすことは重要なことと思われまふ。

## バイブルキャンプの恵み

第5回中部教区バイブルキャンプ（通称：You中部）が、2023年3月27日(月)～29日(水)、大杉みどりの里（石川県小松市）にて行われた。新型コロナウイルスの感染拡大によって、1回の中止と2回のオンライン開催を経て、今年は4年ぶりにようやく2泊3日の対面で実施できたことは本当に喜ばしいことだった。普段は別々の場所にいる中高生が一同に集い、寝食を共にし、聖書の御言葉を聞き、語り合い、祈り合い、遊ぶことを通して、主の恵みを共に分かち合った。

今回のバイブルキャンプには小学5年から高校3年までの31名が参加し、東海側からは40人乗りの貸切バスで会場に入った。講師の森島豊教師（青山学院大学宗教主任）は、「輝いている自己発見」というテーマで縦横無尽に福音のメッセージを中高生に届く言葉で熱く語ってくださった。スタッフ17名は教師だけでなく

大学生の若い信徒も加わり、互いの賜物を惜しみなく出し、キャンプを盛り上げ、また中高生たち一人ひとりと真摯に向き合い、夜遅くまで語り合う姿もあった。最初は緊張していた中高生たちも時間が経つにつれて打ち解け、最終日には別れを惜しみつつ、それぞれの帰路についた。終了後は、その場だけの盛り上がりでなく、今後も教会につながることを願い、一人ひとりの様子を伝える短いレポートをスタッフが記し、参加した中高生の出席教会に送った。

このキャンプを通して、洗礼や信仰告白の決意をした中高生も少なくない。今年度は2024年3月25日(月)～27日(水)、会場は昨年度と同じく大杉みどりの里、講師は塩谷直也教師（青山学院大学宗教主任）を予定している。ぜひYou中部のためにお祈りいただき、皆様の教会の中高生たちを1人でも多くこのキャンプに送り出していただきたい。スタッフ一同、心からお待ちしています！

小松教会 松島保真



### 【常置委員会報告】

2月以降の常置委員会の主な決定事項（2月～7月）

- ◇教師に関する件 16件
- ◇教会に関する件 3件
- ◇助合伝道会計に関する件
- ◇財務に関する件
- ◇平和聖日献金に関する件
- ◇「中部教区互助制度を支える自主献金」の件
- ◇就任式に関する件 4件
- ◇教区・教団に関する件
  - 「キリストへの時間」協力委員選出に関する件
  - 教師オリエンテーションに関する件
- ◇第73回中部教区総会に関する件
- ◇地区総会及び問安使に関する件
- ◇2023年度秋季教師検定試験（正教師）受験志願者の教区推薦に関する件

- ◇特設及び特別委員会委員詮衡に関する件
- ◇監査委員詮衡に関する件
- ◇AHI（アジア保健研修所）評議員選任に関する件
- ◇夏期伝道実習生懇談会に関する件

### 【教区だより】

- ◇お悔み 主の慰めを祈ります
  - 東岡山治（隠退教師）、原栄作（隠退教師）、菊地惟晃（隠退教師）
- ◇お見舞い ご快復をお祈りします
  - 有田恵子（鳥羽教会）

### 【教区事務所より】

教区活動強化献金のお願いを9月初旬にお送りいたします。教区内の諸活動、伝道活動援助充実のため、お献げくださいますようよろしく願いいたします。

**編集委員会より** 今号より横書きにしました。